



名古屋駅西側駅前広場 整備計画

令和 6 年 2 月
名古屋市



目次

目的	……1
デザインコンセプト	……1
平面図／立面図	……2
施設計画	……3
導入する機能	……4
スケジュール	……4

名古屋駅西側駅前広場 整備計画

〔目的〕

- ▶名古屋駅駅前広場の再整備は、リニア中央新幹線の開業の機会を捉え、スーパーターミナル駅にふさわしい高い機能性の発揮と、世界の目的地となる名古屋の新しい顔づくりを基本コンセプトに整備を進めています。
- ▶西側駅前広場の再整備は、交通機能の高度化と将来を見据えた西側エリアのまちづくりと連携した重層的な拠点の形成を目指しています。
- ▶しかし、重層的な拠点の形成には、相当な期間を要することが想定されることから、まずは、アジア・アジアパラ競技大会開催時も視野に入れつつ、平面レベルの限られた空間の中で、リニア中央新幹線開業時の来訪者を温かく迎えるために必要な交通機能の確保と空間形成を行うこととしました。
- ▶令和4年12月には「名古屋駅西側駅前広場デザイン計画」を策定し、デザインの基本的な考え方を示しました。
- ▶デザイン計画を基に詳細な検討を進め、屋根、植栽、舗装、ファニチャーなど整備内容を「名古屋駅西側駅前広場 整備計画」として取りまとめました。

〔デザインコンセプト〕

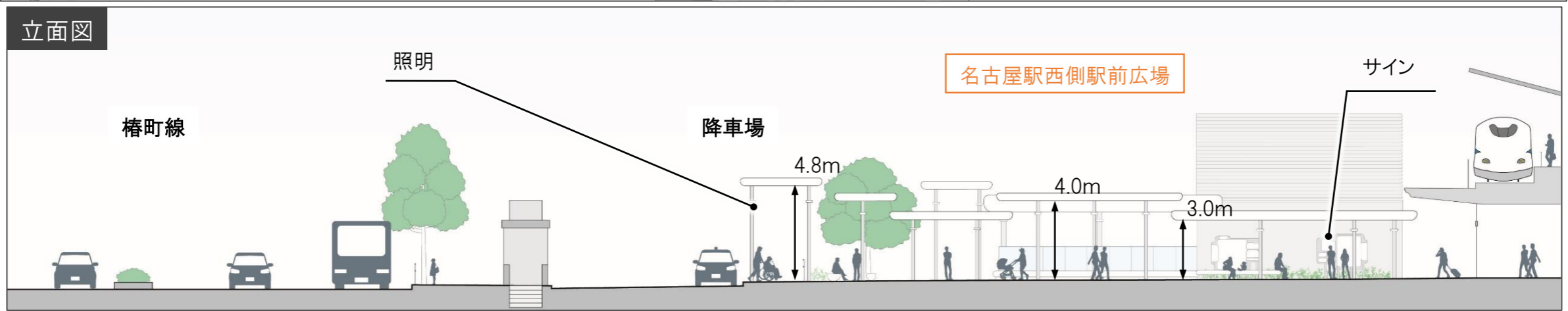
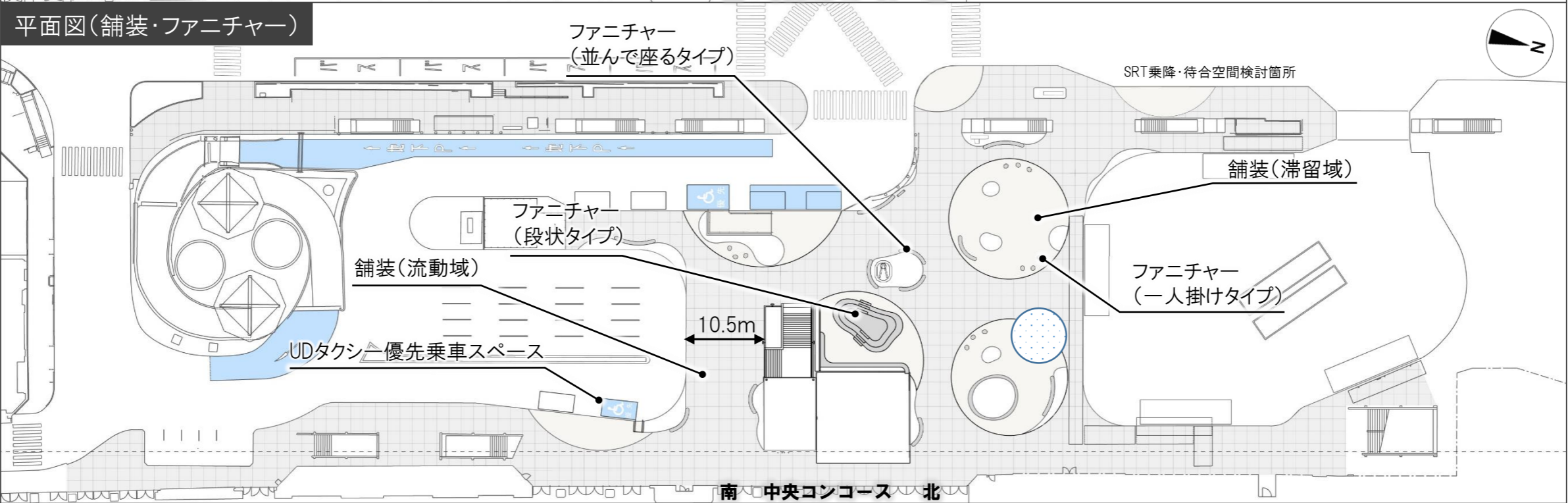
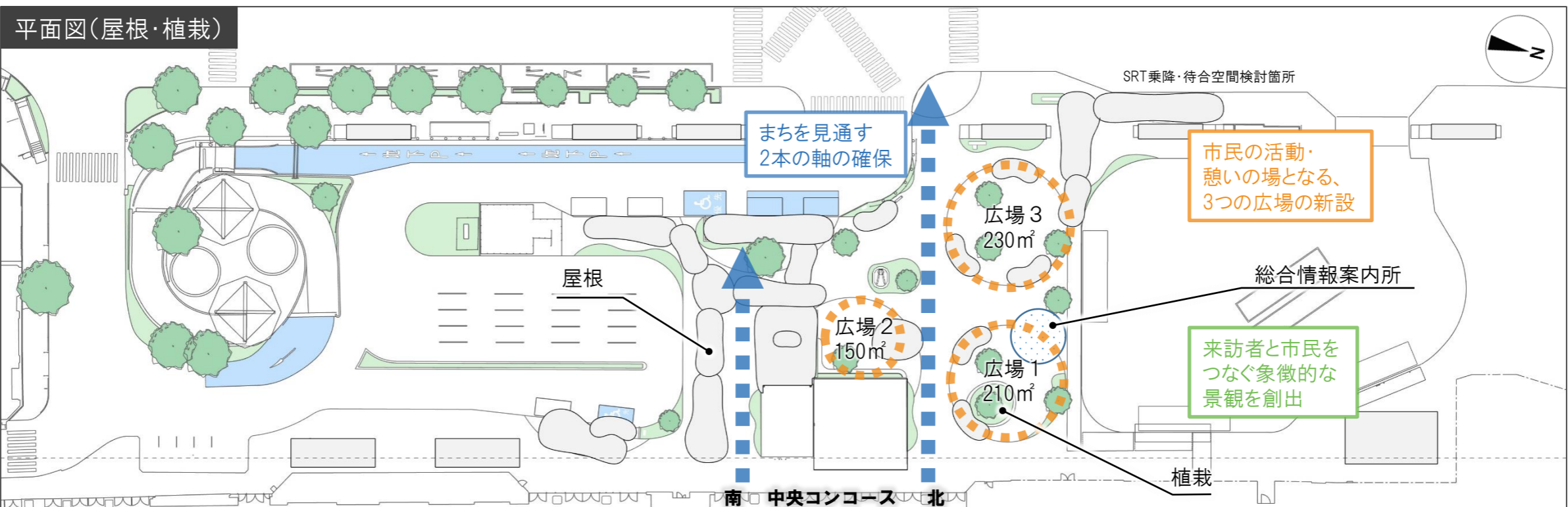
関係性を紡ぐリニアフロンティア ～自然を感じ 近未来を想像し 多彩な活動に触れるクラウド広場～

〔整備イメージ〕



「※」はSRTの乗降・待合空間の検討箇所

名古屋駅西側駅前広場 整備計画



名古屋駅西側駅前広場 整備計画

施設計画

屋根 角のない曲面の形状の白色系の屋根が、柔らかく、軽やかで、清潔感のある印象を与え、多くの人に親しまれる空間を演出する。

- 乗換動線や滞留空間に雨よけや日よけを考慮し、環境調整の役割を担うクラウド屋根を配置する。
- 屋根の素材は、必要な強度を確保しつつ、造形に自由度を持たせるため、FRP(繊維強化プラスチック)を採用する。



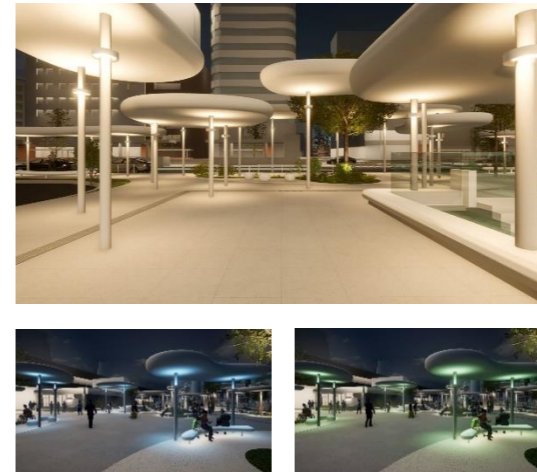
植栽 まちへの直進性を意識して高木を配置するとともに、駅前広場で過ごす人が、植栽による緑陰や憩いを感じられる空間とする。

- 高木は、既存樹木を活かしつつ、新たに植樹する樹木として「カツラ」を選定する。
- 低木・地被は、名古屋の在来種を選定するとともに、四季を感じられる植栽とする。
- アジア・アジアパラ競技大会の開催を見据え、アジアの国にちなんだ植物も取り入れる。



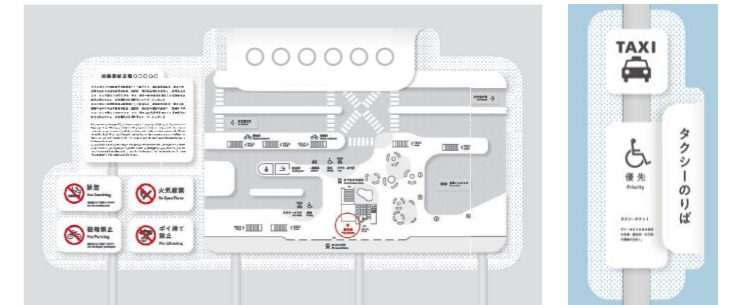
照明 人が歩く動線は、明るく安心して歩くことができる照明とする。また、人が滞留する空間は、間接光による照明とし、落ち着いた雰囲気を演出する。

- 屋根の柱やファニチャーを活用し、照明を設置することで、広場利用者が安心・安全に移動・滞留できるよう、十分な照度を確保する。
- 魅力向上のため、滞留空間の屋根は照明の調光・調色により演出する。



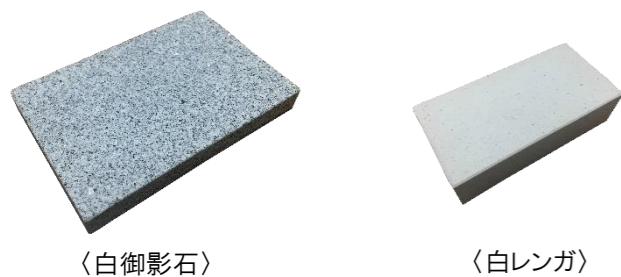
サイン サインは、情報の一体性・連続性・継続性を考慮して配置する。

- サインデザインは、広場の環境と融合するものとする。
- 大量の情報を整理し、過不足なく情報を発信する。
- 大型になりがちなサインも軽やかで圧迫感のない造形とする。



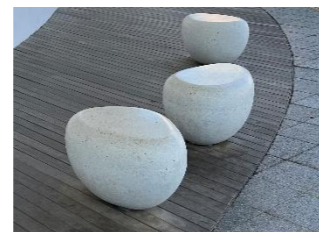
舗装 周囲の施設や既存の舗装材と調和するとともに、リニアの玄関口にふさわしい風格のある材料や、地場産の親しみが持てる材料とする。

- 流動域は、風格を感じるような高質な舗装材として「御影石」を採用する。
- 滞留域は、利用者に親しみを感じられる舗装材として、愛知県産の「レンガ」を採用する。



ファニチャー 利用者の行動に応じた使い勝手の良い配置とし、駅前広場を特徴づける親しみのあるデザインとする。

- 一人掛けタイプや並んで座るタイプ、段状で様々な方向、高さに座るタイプの3種類のファニチャーを設置する。



【一人掛けタイプ】
流動域のわきや屋根や樹木に囲まれた場所に設置

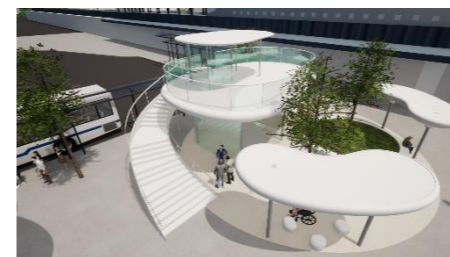
【並んで座るタイプ】
壁面や植栽帯を背にするような場所に設置



【段状タイプ】
ステージにもなるタイプ
広場2に設置

総合情報案内所

- 地域の観光やイベント、周辺のまちづくり情報を発信する機能を持った総合情報案内所を設ける。
- 2階には、利用者が広場及びまちを見渡すことができるようデッキを設ける。

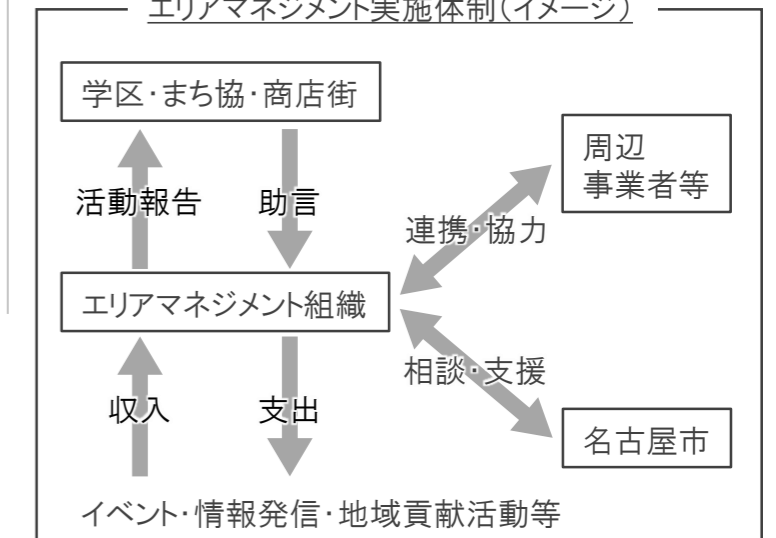


※総合情報案内所のデザインについては現在検討中

維持管理

- リニアの玄関口として、安全で快適な空間の維持を図る。
- にぎわい創出や一部維持管理の質の向上を目指し、地元や周辺事業者等と一緒に、整備段階に応じて、エリアマネジメント活動を展開していくことを目指す。

エリアマネジメント実施体制(イメージ)



名古屋駅西側駅前広場 整備計画

導入する機能

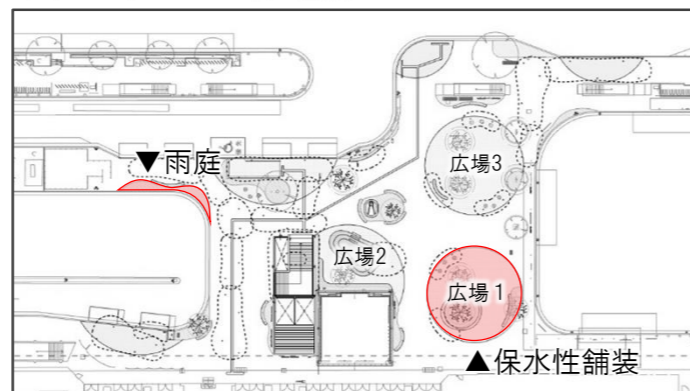
環境への配慮

- グリーンインフラとして、保水性舗装や、植栽帯に雨水を活用する雨庭等を導入する。
- 工事期間中、CO2排出量のモニタリングを実施する。

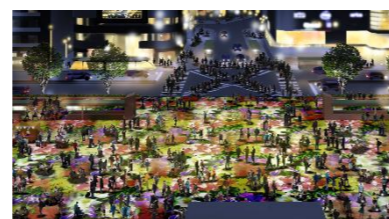


〈雨庭イメージ〉
出典：国土交通省資料

グリーンインフラの導入箇所



〈ミストイメージ〉



※顔づくり検討イメージ図 (R2.3) より

快適性向上

- 広場利用者の快適性向上のため、利用者が滞留する場所にミストを導入する。

魅力向上・発信

- 広場の魅力向上策として、プロジェクションマッピングができる機能を導入する。
- 最先端技術を用い、観光資源についての発信や事業PRを実施する。

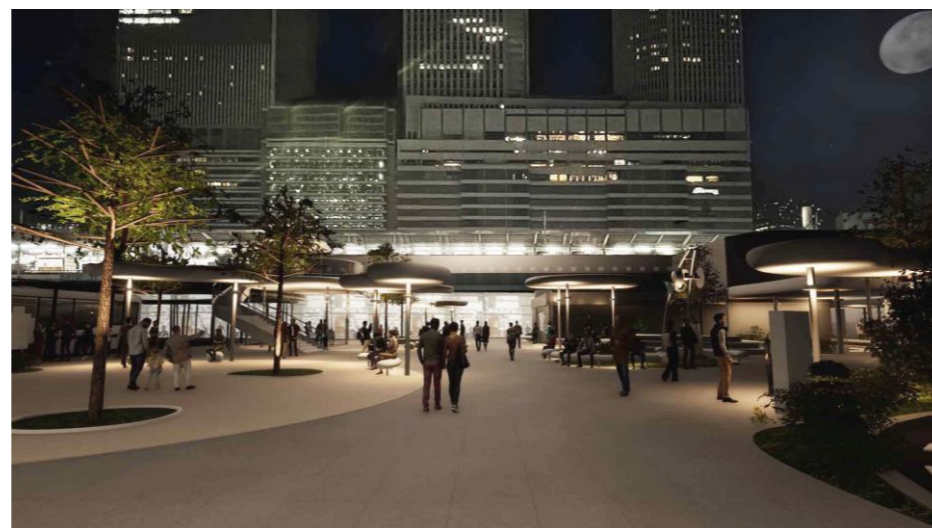
災害対応

- 災害発生時、デジタルサイネージ等を用い、災害情報を発信する。また、一時的に滞留する来訪者が使用できる給電機能を導入する。

ユニバーサルデザインへの配慮

- 視覚障害者誘導用ブロックを設置するなど、誰でも安心・安全に移動できるような空間とする。
- タクシー乗車場において、UDタクシー対応の乗車スペースを確保する。

〔整備イメージ〕



※今後、関係者協議により内容が変更される可能性があります。

※魅力を高める仕掛けづくりや、まちとの連携強化について引き続き検討を進めます。

西側エリアの目指す姿 重層的な拠点形成

リニア開業後できる限り早期に、駅前広場の地下や上空なども活用し、高速・観光バス乗降場を含めた交通結節機能の立体的な配置や、総合案内機能を導入するなど、民間事業者と連携して、スーパーターミナル駅にふさわしい魅力的な拠点の形成を目指します。

スケジュール

